

色数が豊富なガーベラ。世界中で毎年新品種が誕生しており、日本では現在約500品種以上が栽培されている

### 紀南風物

# ガーベラ

## 品種改良で色合いは数えきれず

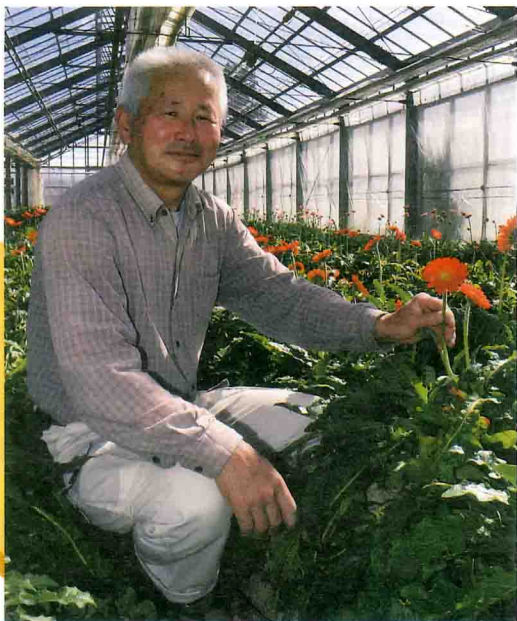
紀南地方では温暖な気候を利用して様々な花き類が栽培されていますが、今回は昔からとんだ地区で盛んなガーベラを紹介いたします。  
ガーベラは南アフリカが原産のキク科の植物で、赤やオレンジなど暖かみのある色味が特長です。品種改良が重ねられた結果、今では数えきれないほどの品種がありますが、ピンク色の「キムシー」や黄色の「バナナ」は、定番品種として根強い人気があります。  
JA紀南では現在7戸の農家が約100品種を作っています。JAから関西の花き市場に向けて、4種類、または8種類の色をミックスした箱で出荷しています。  
栽培は主にハウスでの土耕栽培で、地面に根を張ってたくましく育ったガーベラは、花持ちが良く高品質なことから、市場でも好評価を得ていると云います。  
地元では、JA紀南の「紀菜柑」や直販所あぜみちにも出荷しており、年間を通じて色とりどりのガーベラが店頭に並びます。

### 豆知識 花を長持ちさせるコツ

切り花は地面に植わっている状態とは違い、水を吸い上げる力が弱まっています。そこで、花全体に水を行き渡らせ元気にする「水揚げ」の方法と、より長く花を楽しむコツを紹介します。



- 1. 水揚げ**  
①花全体を新聞紙でしっかりくるみ、形を整えます。茎は新聞紙から10cmくらい出るようにします。  
②花を水にひたし、水中で茎を切り戻します。こうすることで新鮮な水をたくさん吸い上げるようになります。  
③涼しい場所で花瓶などに生けましょう。
- 2. 水の交換**  
花瓶の水は毎日交換し、雑菌の増殖を防ぎます。水量は浅く、切り口から2~3cmほどが目安。深すぎると水にひたしている部分が腐り始め、枯れやすくなります。
- 3. こまめな切り戻し**  
切り口の腐敗が始まる前に、茎をこまめに切り戻します。切り口が新鮮なうちは、花は元気に咲き続けます。切った後は、また水を交換することも忘れずに！



### ガーベラ生産者

おおひら ひでお  
大平 秀雄さん (63) 白浜町才野

花に限らず物づくりが好き  
20代半ばで就農し、花き類を中心に農業に取り組んできた。ガーベラは現在約247、8棟のハウスで栽培しており、JA紀南のただ花き部会長も務めている。  
週3回のJA出荷とあわせ、防除や手入れなどの栽培管理にも追われていた。お陰で年中ほぼ休みなく働いているが、花に限らず物づくりが好きなので、それを苦勞だと感じることはない。  
今は約30種類のガーベラを手がけており、四季を通じて様々な色味を楽しんでいただきたい。